



# 虹

台湾・台中通信  
第3号  
10月1日  
台中日本人学校  
中島英治

右の写真は、アクエリアスの自販機です。台湾の方たちは、日本でどれだけ人気があるかを意識します。台湾では「水瓶座」という商品名です。



## 新台湾紀行

第2回 「八田與一と烏山頭水庫」



曇り空の下の烏山頭水庫



八田與一氏像（正面から）



八田與一氏像（斜め前から）



かつては不毛の大地と呼ばれた嘉南平野を台湾最大の穀倉地帯に変えたのが、日本人技師・八田與一です。彼は大規模な灌漑施設を32歳で設計、34歳から現場監督として指揮を始めます。1930年、彼が44歳の時に完成させた烏山頭水庫(ダム)は当時東洋一の規模を誇り、水路は16000km(万里の長城の約6倍)にも及びました。彼が完成させた水路を「嘉南大圳」と呼びました。

完成を喜んだ地元の人々は、感謝の気持ちを込めて烏山頭水庫のほとりに彼の銅像を作りました。しかし、1942年、フィリピンの灌漑調査を命じられた彼は輸送船で現地に向かう途中、アメリカ潜水艦の攻撃に遭い、亡くなってしまいます。敗戦後の1945年9月1日、彼の妻・外代樹は、夫が作った烏山頭水庫の放水路に身を投じて、夫の後を追いました。

終戦の翌年、地元の人々によって八田與一と外代樹夫人の墓が作られました。戦争末期、金属供出によって銅像が消えてなくなるのを忍びなく思った地元の人々は、倉庫に銅像を隠しておきました。戦後は中華民国の支配下になり、日本人の銅像はことごとく壊された時代も隠され続け、1980年代になってようやく引っ張り出されました。

彼の命日(毎年5月8日)には、嘉南農田水利会の人々によって、今も慰霊祭が行われています。



台湾が今でも親日的なのは、先人たちの努力のおかげです。



現場で使われた軽便鉄道の蒸気機関車です。

街の風景〜乗り物編〜



台中駅に停車する「自強号」(特急)



台北駅に停車する台湾新幹線。日本の700系です。



台中駅。1917年建造の赤レンガ作りです。



これも「自強号」。台中駅にて。



これも「自強号」。列車は様々です。



台中駅のプラットフォーム。日本とそっくり。



台北の地下鉄。切符ではなくコインを購入。20元(約70円)から。右は10元硬貨。



タクシーは黄色。台中は初乗り85元。



こちらはパトカー。欧米風でしょうか。



我が愛車スペースギア。台湾の免許をGET!

車は左ハンドル、右側通行です。日本のように歩行者優先ではなく、大きい車両が勝つ世界です(ホントは違うでしょうが…)

【発行者】台中日本人学校 中島英治

自宅住所：台湾台中市南屯區大墩十六街6号3F-1 e-mail：[ejji-metabolic@cap.ocn.ne.jp](mailto:ejji-metabolic@cap.ocn.ne.jp)

○台中日本人学校のホームページもご覧ください。